

令和 5 年 12 月 5 日

浜田市議会議長

池田 卓 様

議員名

半尾 昭

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 5 年 11 月 21 日 (火) : ~ :

2. 研修内容

今年の議会改革

四国からチーム議会をめぐって

3. 研修先

ローカル・マネジャー推進連盟。

4. 調査経費

5,220 円

5. 調査研究活動の概要

別紙にて



令和の議会改革 ~四国からチーム議会をめざして~

日時：令和5年11月21日、午前1時00分～午後5時00分

主催：ローカルマニフェスト推進連盟

場所：徳島市開催 オンライン講演会

* **基調講演**：「令和の時代に求められる議会の役割」

早稲田大学名誉教授 北川正恭 氏

* **特別講演**：「わくわく実感!水都とくしま」の実現をめざして

徳島市長、内藤佐和子 氏

* **実践報告**：「改革は日々の変化の積み重ね。コツコツ進めた13年間の歩み」、第18回マニフェスト大賞実行委員会事務局長・知立市議長 田中健 氏

* **事例発表**：「目からうろこの議会改革」

那賀町議会副議長・議会改革特別委員長：柏木岳 氏。

* **事例発表**：「インクルージョン議会にかける思い」

小松島市議会議会改革特別委員長：南部透 氏。

* **パネルディスカッション** 「令和の議会改革、その先に描く展望」

コーディネーター：可児市議会議員・ローカルマニフェスト推進連盟

共同代表 川上文浩 氏

考察

北川正恭氏の指摘、チーム議会(事務局で取り組む。議員活動からチーム活動へ、事務局と一体となった議会活動が必要である。墨田区の基本条例に

よると、職員と議員は対等で、職員にも提案権がある。議員は議員間討議のあとで質疑に入るべきである。そして、少数意見の留保が大事である。マニフェスト運動がスタートして20年になるが、今後は、新たに、事務局を入れたチーム議会の歴史が扉を開くだろう。

次に、令和2年に全国最年少で徳島市長になった内藤佐和子氏は元難病東大生であった。帰郷後、なぜ商店街が寂れたんだらう。さらに、そごうの撤退後の中心市街地の活性化に取り組んだが、コロナ禍もあり、景気は底であった。「出来ないなんて言わないで」の合い言葉で「市長直属の準備室」を立ち上げた。

目指す街の姿：人と人とが繋がり、新たな挑戦や投資が生まれる街。アミコビルの再生で多様な目的を持った人々のたまり場：ロフト、無印、インクルーシブカフェ、図書館、青少年センターなどを配置した。

次に、ひょうたん島・川の駅ネットワーク目指して、マンションを併設した。ここに、「水都徳島を目指して」がスタートした。水上交通を盛んにした未来都市・SDGS ひょうたん島がモデル地区として誕生した。僅か3年での改革は、目を見張るようである。難病東大生という彼女の経歴が多様性のダイバーシティ・活性化のキーコンセプトとしてのイノベーションをもたらしたと想像出来る。

浜田市に置き換えて見るとき、三桜酒造の跡地利用が、多くの市民が交わり、多様な目的を持った人々のたまり場となり、浜田川との親水機能がからめば、面白い空間づくりになると考える。

牛尾昭